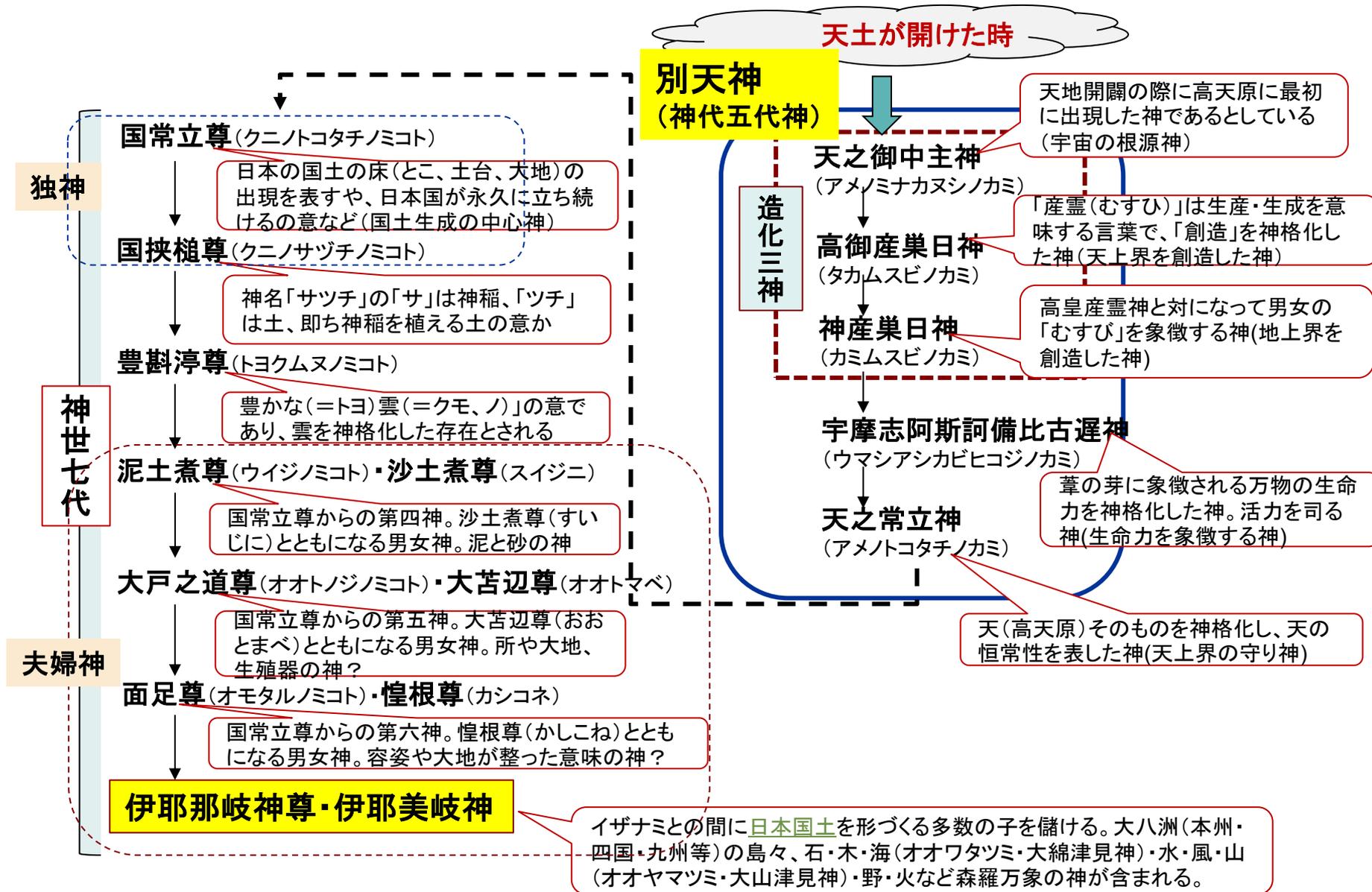


第2回天皇の国史「日本の神代・先史」参照資料

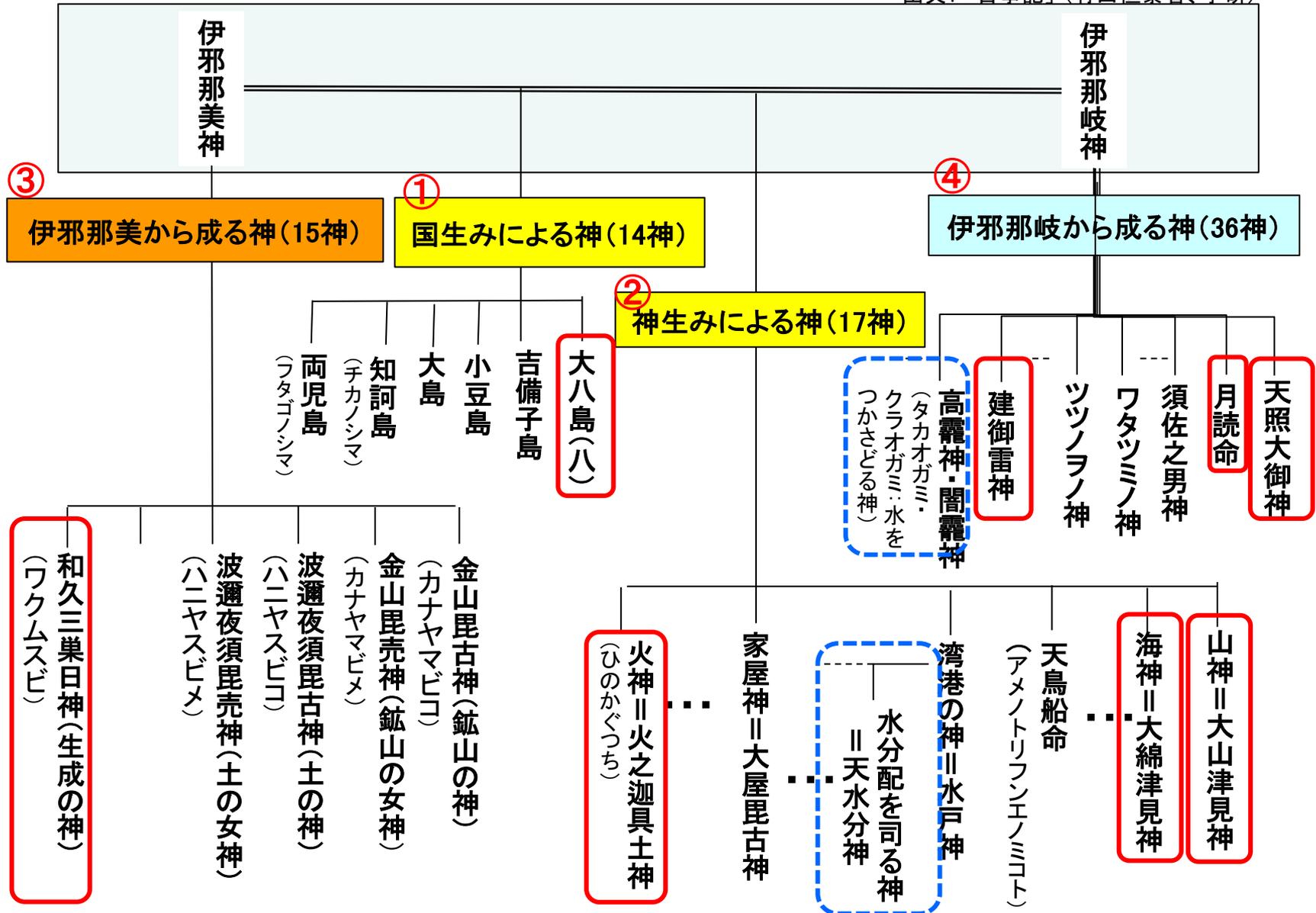
参考資料2-1 : 神世七代(書紀)と別天神(古事記)



出典:「古事記」(竹田恒泰著、学研)

参照資料2-2-① : 籠神社と眞名井神社に関する神生みの神

出典:「古事記」(竹田恒泰著、学研)



参照資料2-2-②：伊邪那岐神と伊邪那美神の神生み

その1

①二神による神生み：17柱

* 先ず住居に関する神：7柱

- ・大事忍男神(おほことおしをのかみ)：多くの神が生まれる前兆の神
- ・石土毘古神(いはつちびこのかみ)：岩や土の神
- ・石巢比売神(いはすひめのかみ)：岩や砂の女神
- ・大戸日別神(おほとひわけのかみ)：未詳
- ・天之吹男神(あめのふきおのかみ)：屋根を葺くことの神
- ・大屋毘古神(おほやびこのかみ)：家屋の神
- ・風木津別之忍男神(かざもつわけのおしをのかみ)：風の神

* 次に海や河など水に関する神：3柱

- ・大綿津見神(おほわたつみのかみ)：海の神
- ・速秋津比古神(はやあきつひこのかみ)：水戸神(みなとのかみ)。河口の神
- ・速秋津比売神(はやあきつひめのかみ)：水戸神(みなとのかみ)。河口の女神

+ 速秋津比古神と速秋津比売神は以下の神々を産んだ：8柱

- ・沫那藝神(あはなぎのかみ)：泡の神
- ・沫那美神(あはなみのかみ)：泡の女神
- ・頼那藝神(つらなぎのかみ)：水面の神
- ・頼那美神(つらなみのかみ)：水面の女神
- ・天之水分神(あめのみくまりのかみ)：灌漑の神、分水嶺の意
- ・国之水分神(くにのみくまりのかみ)：灌漑の神、分水嶺の意
- ・天之久比奢母智神(あめのくひざもちのかみ)：灌漑の神、水をくむための容器をもっているという意
- ・国之久比奢母智神(くにのくひざもちのかみ)：灌漑の神、水をくむための容器をもっているという意

①二神による神生み:17柱(つづき)

* 大地に係る神:4柱

- ・志那都比古神(しなつひこのかみ):風の神
- ・久久能智神(くくのちのかみ):木の神
- ・大山津見神(おほやまつみのかみ):山の神
- ・鹿屋野比売神(かやのひめのかみ):野の神。別名・野椎神(のづちのかみ)

+大山津見神と鹿屋野比売神は以下の神々を産んだ:8柱

- ・天之狭土神(あめのさづちのかみ):土の神、山地の狭くなったところの意
- ・国之狭土神(くにのさづちのかみ):土の神、山地の狭くなったところの意
- ・天之狭霧神(あめのさぎりのかみ):霧の神、後に大国主神の子孫に嫁ぐ
- ・国之狭霧神(くにのさぎりのかみ):霧の神
- ・天之閻戸神(あめのくらどのかみ):溪谷の神
- ・国之閻戸神(くにのくらどのかみ):溪谷の神
- ・大戸惑子神(おほとまとひこのかみ):未詳、谷間で迷う意か
- ・大戸惑女神(おほとまとひめのかみ):未詳、谷間で迷う意か

* 鳥之石楠船神(とりのいはくすぶねのかみ):別名は天鳥船(あめのとりふね)

* 大宜都比売神(おほげつひめのかみ):未詳

* 火之夜藝速男神(ひのやぎはやをかみ):別名は火之迦具土神(ひのかぐつちのかみ)

火の神・迦具土神を出産したとき女陰が焼け、伊邪那美命は病気になった。病に苦しむ伊邪那美命の吐瀉物などから次々と神が生まれた。

②伊邪那美神の火傷の苦しみから生まれる生産の神:15柱

* 伊邪那美命の嘔吐物から成った神:2柱

- ・金山毘古神(かなやまびこのかみ):鉾山の神
- ・金山毘売神(かなやまびめのかみ):鉾山の女神

②伊邪那美神の火傷の苦しみから生まれる生産の神:15柱(つづき)

* 伊邪那美命の大便からなった神:2柱

- ・波邇夜須毘古神(はにやすびこのかみ):土の神
- ・波邇夜須毘売神(はにやすびめのかみ):土の女神

* 伊邪那美命の尿から成った神:2柱

- ・彌都波能売神(みつはのめのかみ):水の女神
 - ・和久産巢日神(わくむすひのかみ):生成の神、若々しい生勢力の意
- ＋和久産巢日神には以下の一柱の子がいる。
- ・豊宇気毘売神(とようけびめのかみ):穀物の神、伊勢神宮下宮の祭神

③伊邪那岐神から生まれた神々:35柱

伊邪那岐命は伊邪那美命の死に涕泣したが、この涙から神がまた生まれた。

* 泣沢女神(なきさわめのかみ):香具山の麓の畝傍から湧き出る井戸の神様

* 迦具土神の血からなる神

- ・伊邪那美神の亡骸を比婆山に葬ったが、悲しみは治まらず、十拳剣(トツカノツルギ)で迦具土神の首を刎ね、その血潮から8柱の神が成る。
- ・剣の先に付いた血が岩に付くと三柱の岩と剣の神が3柱:石折神(いはさくのかみ)、根折神(ねさくのかみ)、石筒之男神(いはつつのをのかみ)
- ・剣の刀身の根本からの血が岩石に落ちて生成された雷と火の神が3柱:甕速日神(みかはやひのかみ)、樋速日神(ひはやひのかみ)、建御雷之男神(たけみかづちのをのかみ)
- ・剣の柄に溜まった血が伊邪那岐の指からあふれると、天を呼ぶ滝の神と水の神が2柱:閻淤加美神(くらおかみのかみ)、閻御津羽神(くらみつはのかみ)

* 黄泉帰りの禊払いからなる神

- ・伊邪那岐命は黄泉の穢れから身を清めるために、竺紫(つくし)の日向(ひむか)の橘の小門(をど)の阿波岐原(あはきはら:現在の宮崎県宮崎市阿波岐原町)で禊を行った。
- ・禊のために衣を脱ぐと12柱の神が生まれ、禊で14柱の神が生まれる。

* 禊のために衣を脱ぐと12柱の神が生まれる

- ・衝立船戸神(つきたつふなとのかみ、杖から生まれる):海の道しるべの神
 - ・道之長乳齒神(みちのながちはのかみ、帯から生まれる):長い道の岩の神
 - ・時量師神(ときはかしのかみ、袋から生まれる):時間を司る神
 - ・和豆良比能宇斯能神(わづらひのうしのかみ、衣から生まれる):煩いの主の神
 - ・道俣神(ちまたのかみ、袴から生まれる):分かれ道の神
 - ・飽咋之宇斯能神(あきぐひのうしのかみ、冠から生まれる):口を開けれ汚れを食う神
- までが陸路の神(6柱)。
- ・奥疎神(おきざかるのかみ、左手の腕輪から生まれる):沖の神
 - ・奥津那芸佐毘古神(おくつなぎさびこのかみ、同上):沖の渚の神
 - ・奥津甲斐弁羅神(おきつかひべらのかみ、同上):沖と渚の間の神
 - ・辺疎神(へざかるのかみ、右手の腕輪から生まれる):浜辺の神
 - ・辺津那芸佐毘古神(へつなぎさびこのかみ、同上):浜辺の渚の神
 - ・辺津甲斐弁羅神(へつかひべらのかみ、同上):沖と浜辺の間の神
- は海路の神(6柱)。

* 禊で14柱の神が生まれる

- ・「上流は流れが速い。下流は流れが弱い」といって、最初に中流に潜って身を清めたとき、二神が生まれた。この二神は黄泉の穢れから生まれた神である。
- ・八十禍津日神(やそまがつひのかみ):災いの神
- ・十大禍津日神(おほまがつひのかみ):凶事を起こす神

*** 禊で14柱の神が生まれる(つづき)**

- ・次に、その禍(まが)を直そうとすると三神が生まれた。
 - ＋神直毘神(かむなおびのかみ)、大直毘神(おほなおびのかみ):凶事を吉事に変える神
 - ＋伊豆能売(いづのめ):清浄な女神
- ・水の底で御身を清めると二神が生まれた。
 - ＋底津綿津見神(そこつわたつみのかみ)と底筒之男神(そこつつのをのかみ)
- ・水の中ほどで御身を清めると二神が生まれた。
 - ＋中津綿津見神(なかつわたつみのかみ)と中筒之男神(なかつつつのをのかみ)
- ・水の水面で御身を清めると二神が生まれた。
 - ＋上津綿津見神(うえつわたつみのかみ)と上筒之男神(うえつつのをのかみ)

- ・顔を注いで三神がうまれた
 - ＋左の目を洗うと天照大御神(あまてらすおほみかみ)が生まれた。
 - ＋右の目を洗うと月読命が生まれた。
 - ＋鼻を洗うと建速須佐之男命(たけはやすさのをのみこと)が生まれた。

③伊邪那岐神の神命

伊邪那岐命は最後に三柱の貴い子を得たと喜び、三神に委任した

- ・天照大御神に首飾りの玉の緒を渡して高天原を委任した。その首飾りの玉を御倉板拳之神(みくらたなのかみ)という。
- ・月読命には夜の食国(をすくに:夜の世界)を、
- ・建速須佐之男命には海原(うなはら)を。

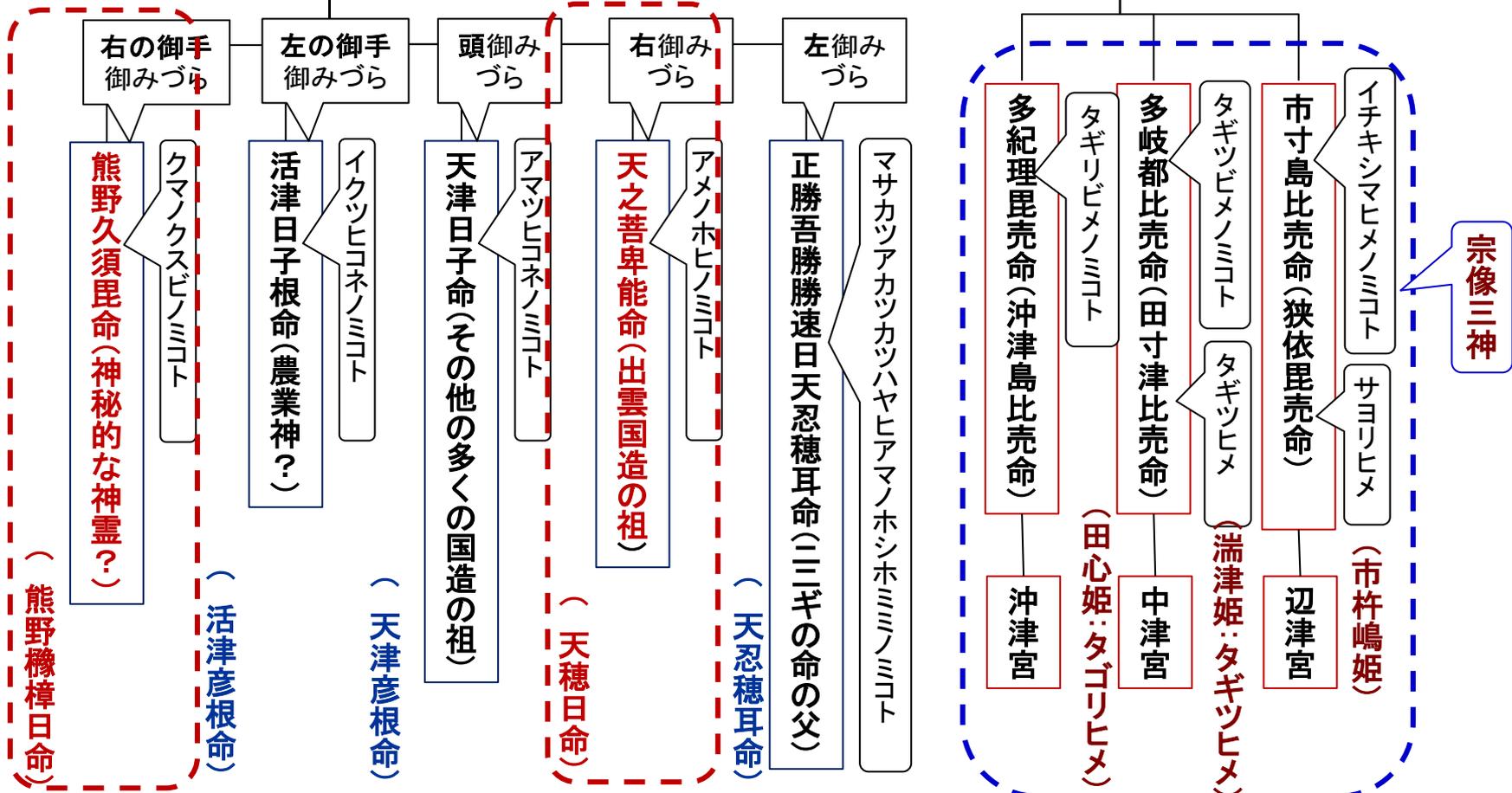
参照資料2-3: 誓約により成った神

注: 神名は古事記、()内は書紀での表記名

高天原での誓約

須佐之男命

天照大御神



出典: 「古事記」(竹田恒泰著、学研)、「日本書紀」(宇治谷孟、講談社)、「むなかたさま」(宗像大社)

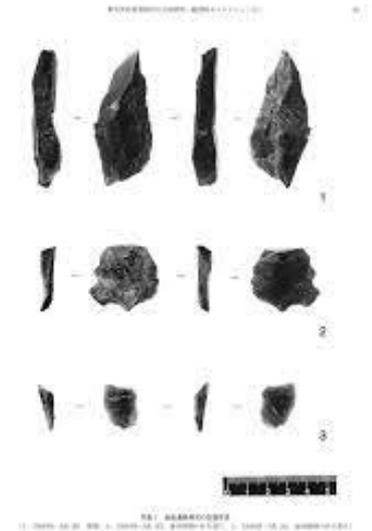
参照資料2-4:岩宿遺跡



出土した磨製石器



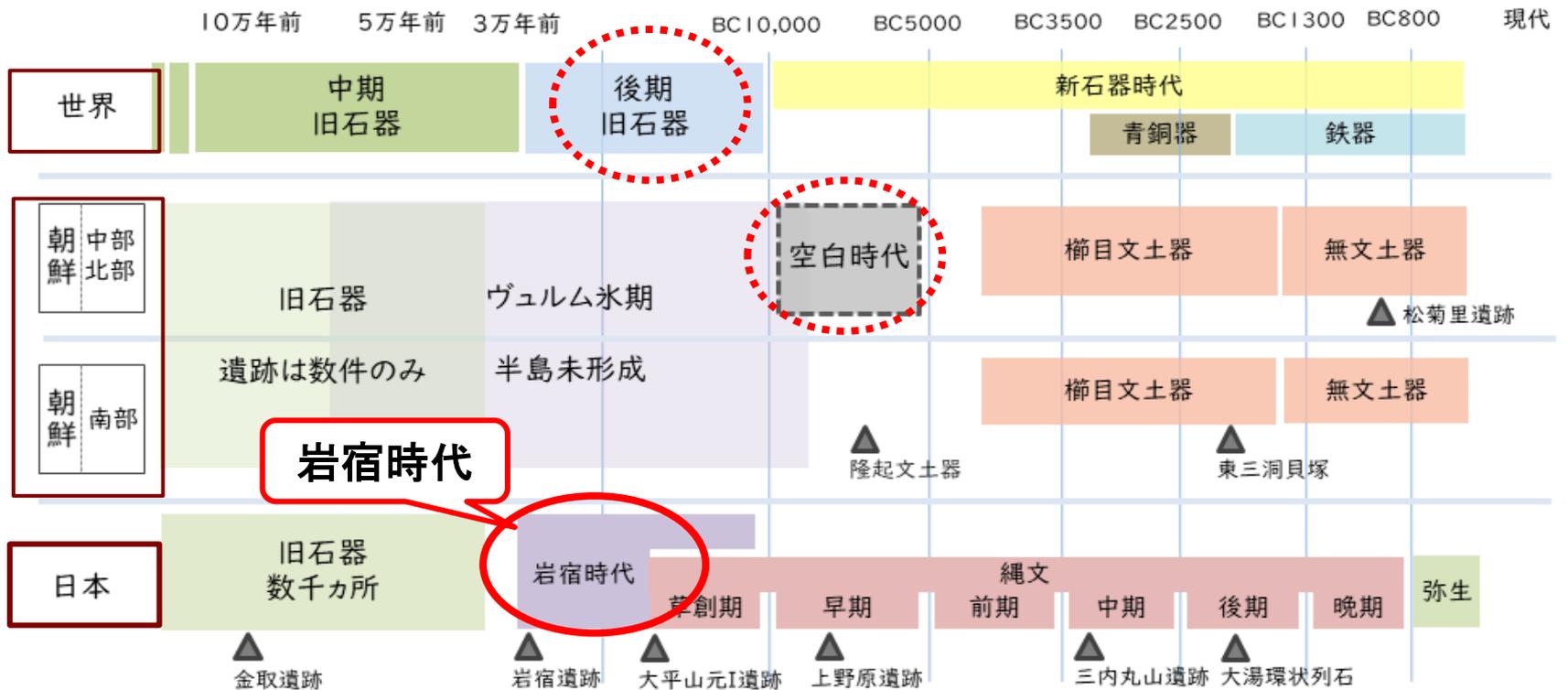
日本の遺跡 3x3 旧石器時代の遺跡



出典：日本旧石器学会

参照資料2-5-①: 旧石器時代の日本と朝鮮半島

旧石器～縄文時代



出典:「日本の歴史アップデート」ダイレクト出版

参照資料2-5-②: 世界最古の釣り針、細石器

ニシキウズ科の巻貝



巻貝で作った釣り針

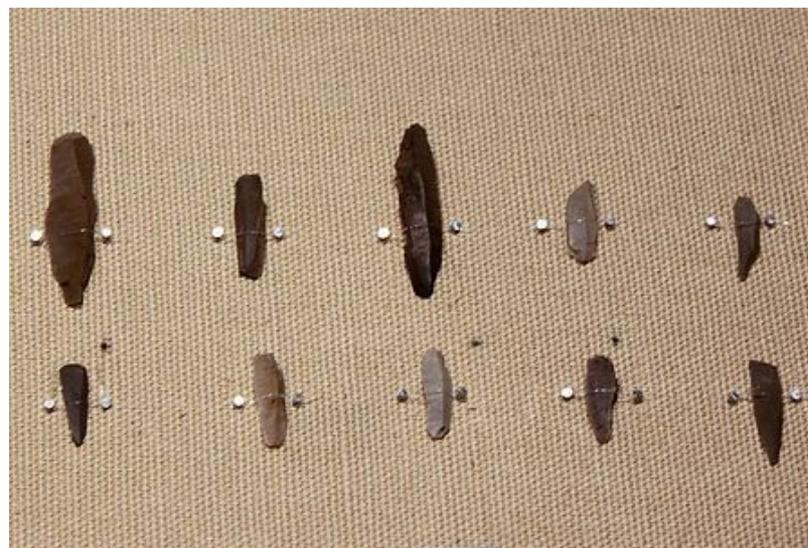


0 1cm

出典:「水産技術の発展」道水株式会社

細石器

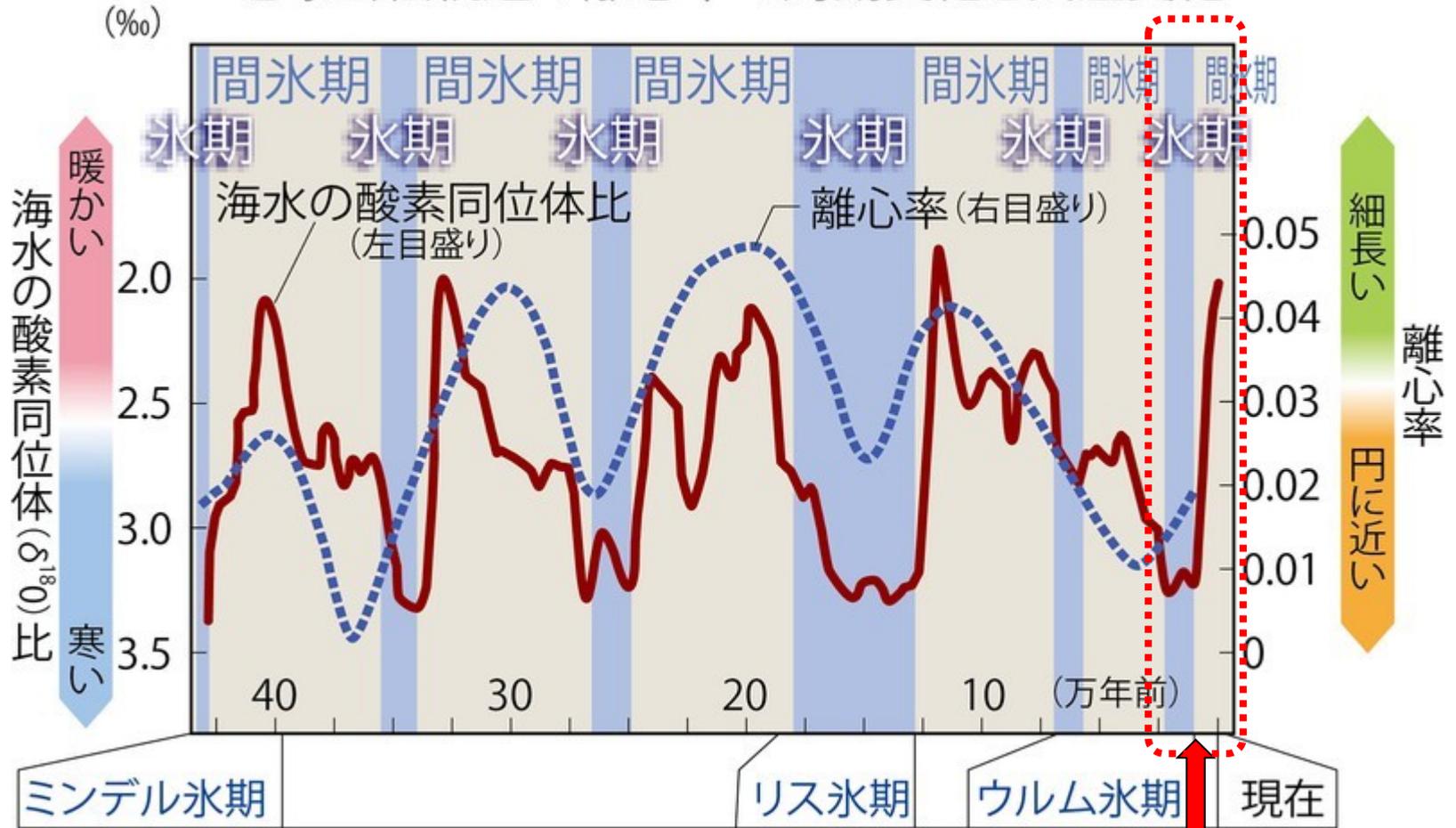
細石器とは、打製石器の一種で、小型かつ刃の特徴を持つ石器である。



出典:東京国立博物館

参照資料2-6: 氷河期と間氷期

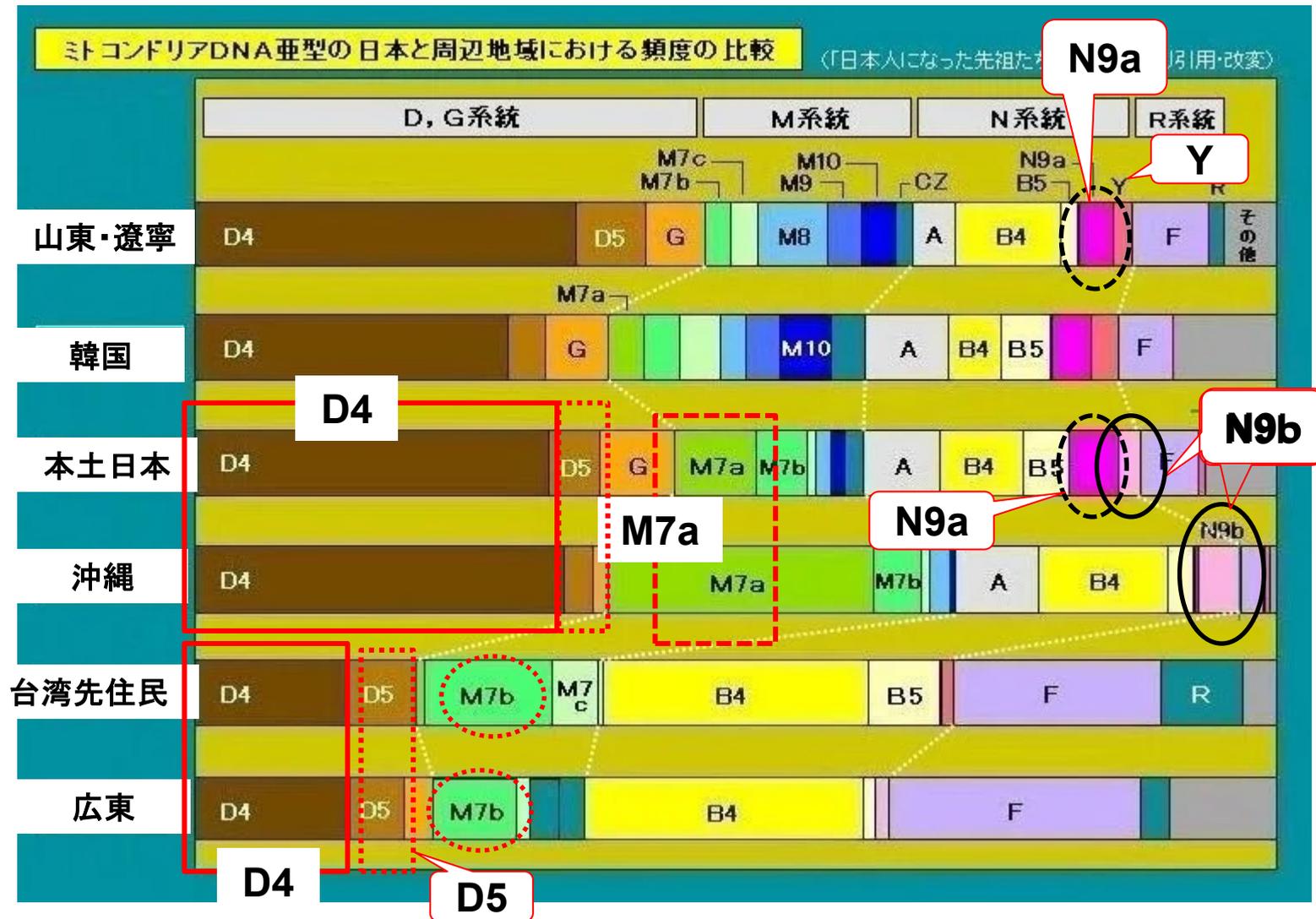
地球公転軌道の離心率の周期変化と気温変化



(出所) 丸山茂徳氏による図を筆者が一部改変

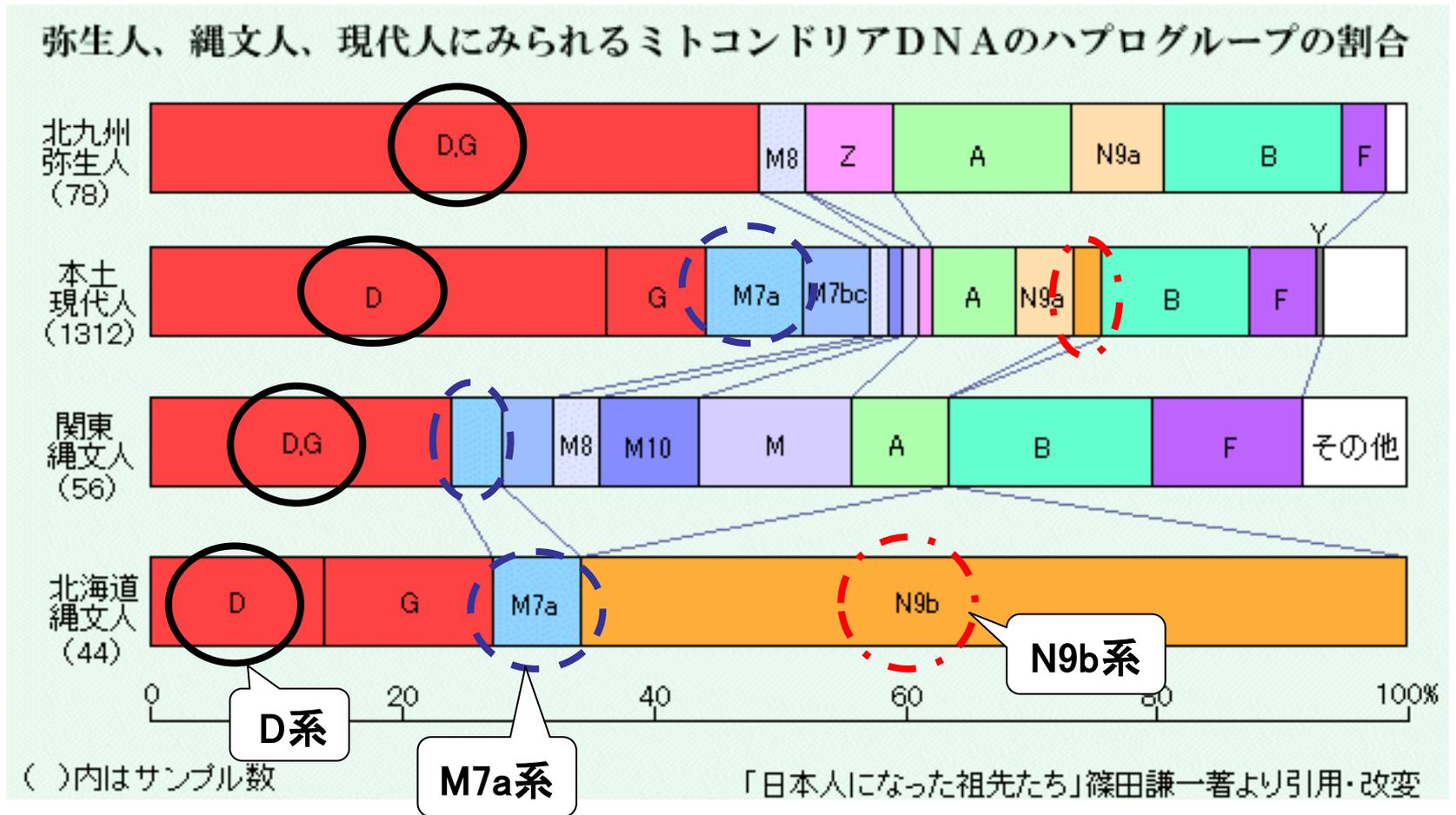
19000年前

参照資料2-7: 日本人と周辺地域のmtDNAハプログループの頻度比較



出典 篠田謙一著「日本人になった祖先たち」

参照資料2-8: 現代人・弥生人・縄文人のmtDNAハプログループの頻度比較



参照資料2-9: Y染色体のハプログループの頻度比較

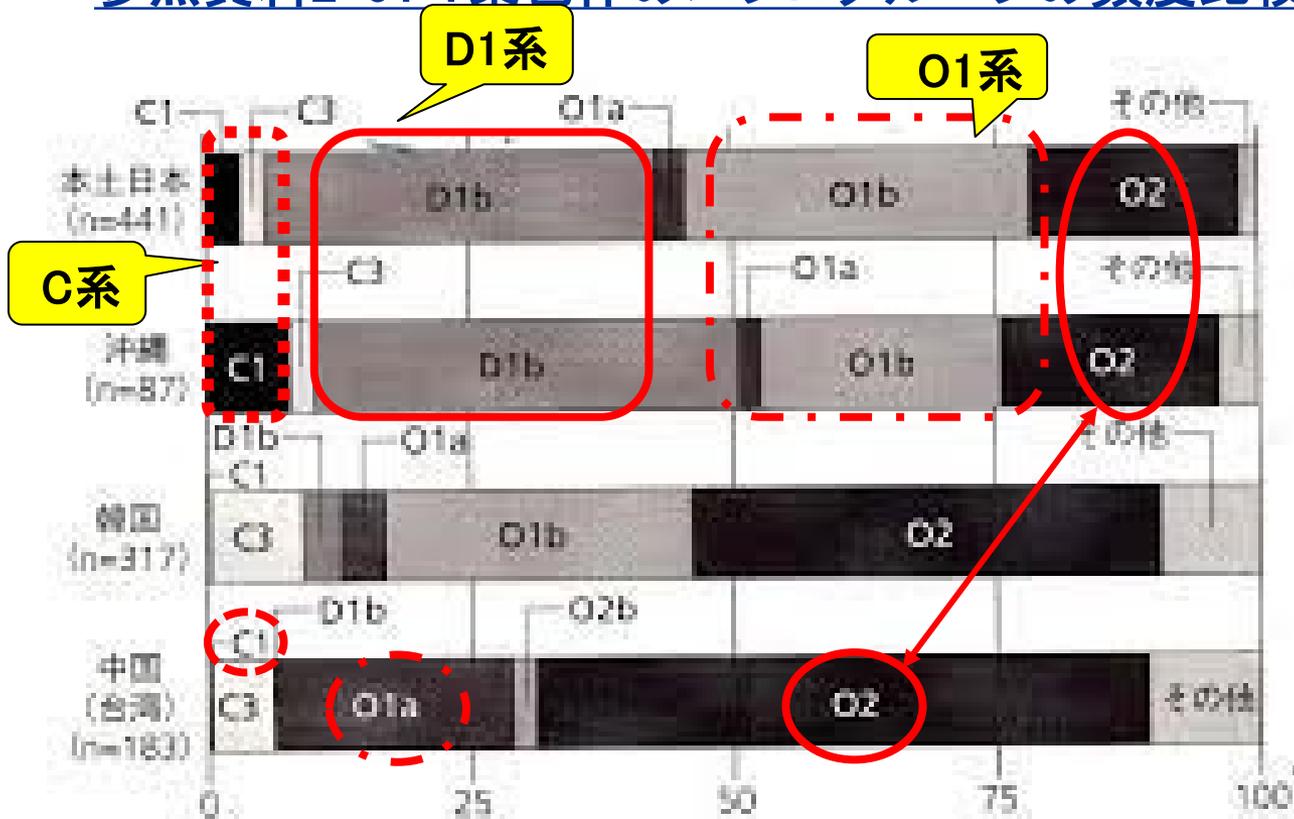
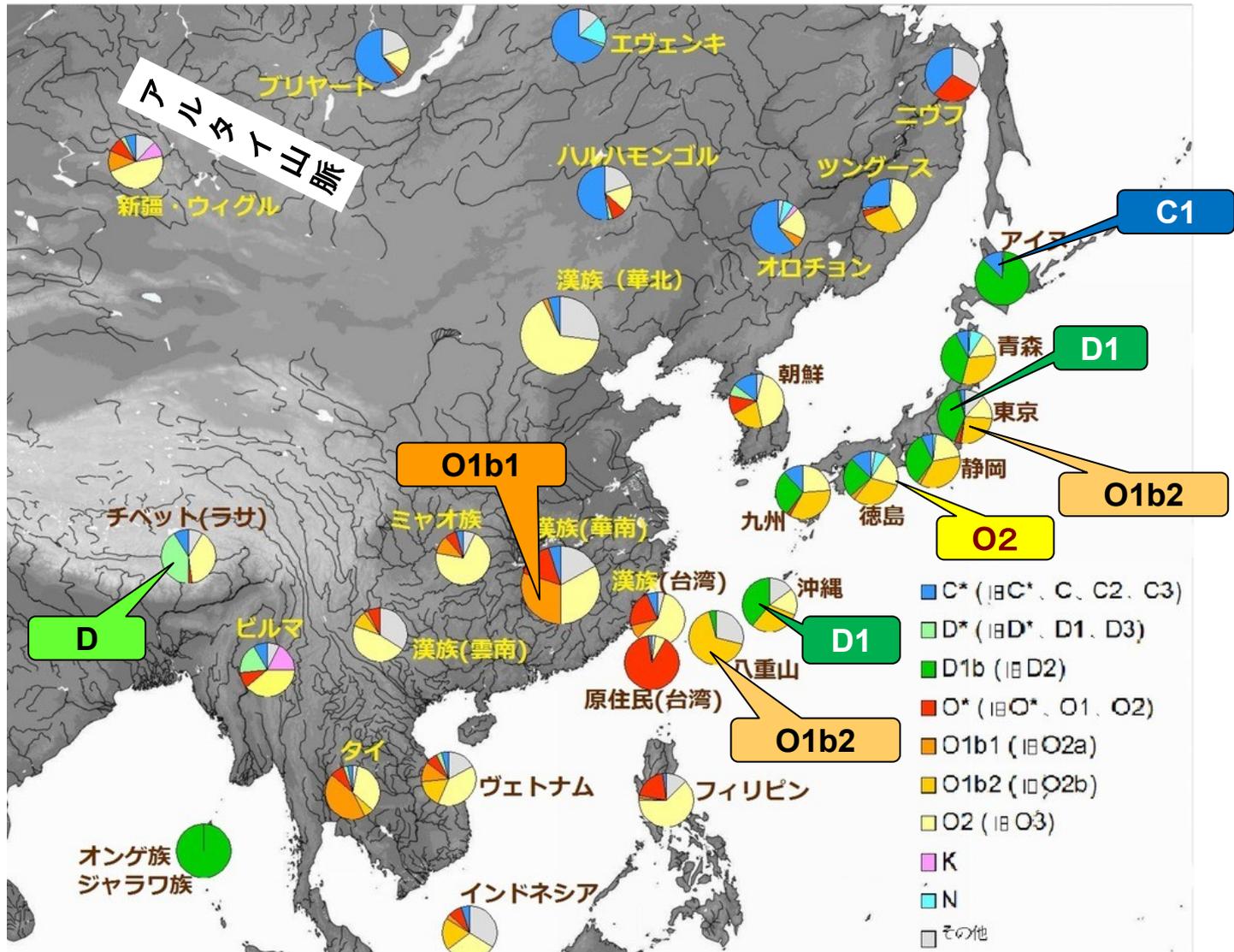


図5-10 日本とその周辺のY染色体ハプログループの地域比較 (Nonaka et al. 2007を改定) (注)2020年、「D1b」は「D1a2a」に名称変更(ISOOG)

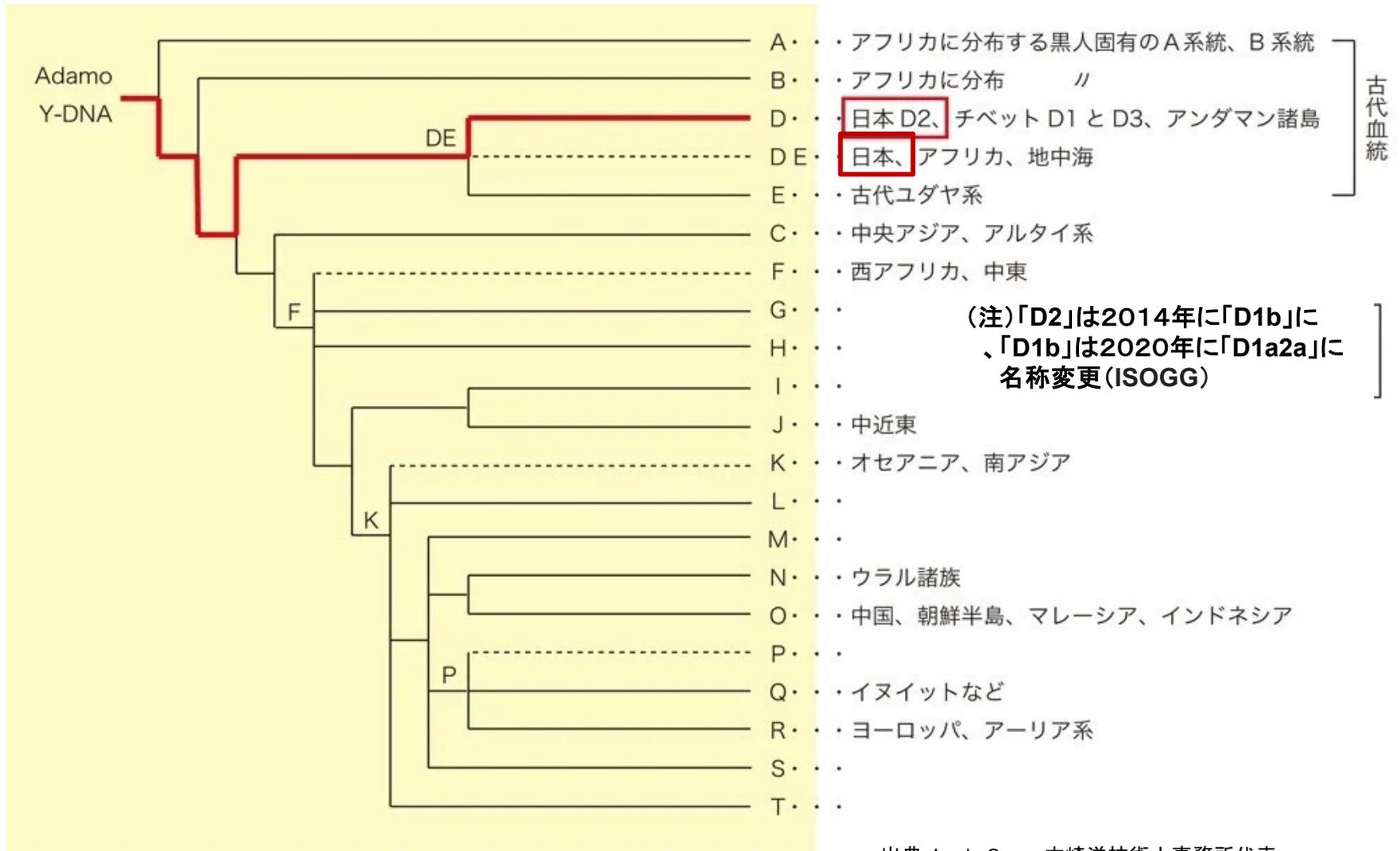
参照資料2-10

: Y染色体のハプログループの近隣国との頻度円グラフ比較



出典:ヒナフキンの縄文ノート 2021-0115

参照資料2-11: Y染色体のハプログループの民族体系図



出典: LuckyOcean木崎洋技術士事務所代表